

コリント人への手紙第一 1:18-31 十字架のことば

わたしたちは今日、デクスターさんが3週間前に説教してくださった聖書箇所を踏まえながら、本日の聖書箇所を見ていきましょう。デクスターさんの説教で用いられた聖書箇所では、バプテスマのことで引き起こされた教会内の分裂という問題を取り上げていました。この教会の信徒は、教会において信徒同士の一致をもたらす従順さを示す代わりに、誰がバプテスマを受けたかということばかりに注目していました。彼らは、バプテスマの意味やそれが象徴するイエス・キリストに注目することがなかったのです。パウロはこの箇所を17節でこのように締めくくっています。「キリストが私を遣わされたのは、バプテスマを受けるためではなく、福音を、ことばの知恵によらずに宣べ伝えるためでした。これはキリストの十字架が空しくならないようにするためです。」(デクスターさんが指摘したように)パウロはバプテスマを命じる大宣教命令を否定したわけではありませんでした。洗礼を受けた者、つまりパウロ自身のことは重要ではない、ということ指摘したのです。パウロが偉大でもなく、彼の弁舌が巧なでもなく、キリストが偉大である。このことが中心だったのです。キリストのメッセージとは、十字架のメッセージ、良い知らせ、十字架の福音でした。今日は、この十字架のことばについて見ていきたいと思えます。お祈りしてから、コリント人への手紙第一 1:18-31を見ていきましょう。

まず、今日の聖書箇所をお読みしましょう。「18. 十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。19. 「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、悟りある者の悟りを消し去る」と書いてあるからです。20. 知恵ある者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の論客はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。// 21. 神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。23. しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、24. ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。25. 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。// 26. 兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。27. しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選ばれました。28. 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。29. 肉なる者がだれも神の御前で誇ることがないようにするためです。// 30. しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。31. 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。」

まずはじめに、この箇所で鍵となるのは、パウロが最初に述べている「十字架のことば」を、何を対比させているのか、ということです。パウロは「十字架のことば」を17節にある人間の「ことばの知恵」と対比させています。「ことばの知恵」とはキリストの十字架を力を空しくするものでした。今日、この世には知恵と称するものが沢山あります。私たちが生きていく上で、最適な生き方や在り方を提供していると称する、様々な哲学や教えがあります。そのようなものの中には、社会主義、民主主義、保守やリベラルなど政治的な価値観も含まれます。中には、西洋で重要視されてきた個人主義や、国の文化と集団的平和(和)を乱さないアジアの多くの文化もあります。社会の構造を理解する方法を模索する批判理論のような学問的な理論もあります。また仏教、神道、イスラム教などを信奉することが、人生を生きる最良の道だとするものもあります。これら全て、パウロが17節で言っている「ことばの知恵」であろうと思えます。しかし、今述べた理論や在り方や宗教と対峙するもの、それが一つの言葉すなわち「十字架のことば」なのです。十字架のことばは、この世の哲学や在り方や宗教と、どのように違うのでしょうか?パウロが問いかけていることは、まさに、そのことなのです。

まず最初に、十字架のことばには神の力がある、ということです。「十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」十字架のメッセージには、分ける力があるのです。十字架のことばが、この世に暮らす人々を、滅びる者たちと救われる者たちという2つのグループに分けていることに注目してください。「ことばの知恵」を語る者はすべて、十字架のことばにさらされます。そして、滅びるか、救われるか、そのどちらかに振り分けられます。つまり、十字架のことばは、哲学、理論やこの世における真実を伝えるあらゆることばを裁いてしまうのです。19節では、このみことばの力を次のように示しています。「19. 「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、悟りある者の悟りを消し去る」と書いてあるからです。」ここで、使徒パウロはイザヤ書 29:14 を引用しています。そこには「それゆえ、見よ、わたしはこの民に再び、不思議なこと、驚くべきことをする。この民の知恵ある者の知恵は滅び、悟りある者の悟りは隠される。」とあります。イザヤ書 29 章が述べているのは、神の民に対する神の裁きについて、すなわち、神のご計画ではなく、自分たちの計画や知恵によって全てを行い、国を動かしている、神の民であるイスラエルに対する神の裁きについて述べているのです。神は、ご自分こそが知恵のあるお方であり、全てを支配しているのだ、ということを示されます。パウロが特にこのイザヤ書の一節を引用するのは、神を拒絶する者ではなく、神に従うと主張する者に焦点を当てるためなのです。わたしたちクリスチャンは、この世の哲学を否定しつつも、自分の知恵に基づいて、何が理に合っているか、何が現実的であるかを考えて意思決定したり、教会運営をしようとしていないでしょうか？神は、ご自身が啓示されるもの、つまり御言葉に基づいて、神からの知恵でないものを全て滅ぼす、とおっしゃっています。わたしたちが自分で最善だと考えて判断したり、私たち自身の見識に基づいて立てた計画は、神から阻止され、失敗に終わるのです。十字架のメッセージには、わたしたちが自分や教会のことについて決断するとき、自分の知恵ではなく神の知恵を求める必要がある、という意味が込められています。パウロは続けて 20 節でこう問います。「知恵ある者はどこにいますか。学者はどこにいますか。この世の論客はどこにいますか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。」わたしたちは、家庭生活に関して、仕事に関して、あるいは教会生活に関して、間違ったところに知恵を求めることが多々あります。パウロはこれらの問いの中に、あらゆる知識の源を含めようとした可能性が高いです。ここで、パウロが知恵ある者というとき、“学者”ユダヤ人、そして“論客”ギリシア人、という分け方で述べています。コリント教会には、律法学者を最も教養のある者と理解していたユダヤ人と、ギリシャ哲学の討論スタイルを主な知恵の源とする異邦人がいたことを思い出して下さい。ですからパウロは「神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。」という問いで自分の考えを締めくくっています。当然、そのとおりだと答えるでしょう。では、なぜわたしたちは知識だけでなく、知恵についても神以外から求めてしまうのでしょうか。

ここで知識と知恵を定義しておきたいと思います。この二つは関係していますが同じではありません。知識とはあることについての正しい理解です。ですが、知恵は正しい判断と決断を下す能力です。だから、わたしが大変優秀ならば、会計原則や財務処理に関するあらゆることを学ぶことができます。それは純粋な知識ということです。しかし、わたしがその知識を用いて会社のお金を使いこんでしまったとしたら、それは法に触れる罪深い決断をしたので、知恵がないことを示すこととなります。知識と知恵の関係について書かれた面白い T シャツを見かけたことがあります。「知識とはトマトが果物であるという事を知っていること。知恵とはトマトをフルーツサラダに入れてはいけないという事を知っていること」みなさんは、学校でも、仕事でも、聖書についても、出来る限り沢山の知識を得てください。ですが同時に、それらの真の源である神に、知恵とそれらの知識を用いる方法を求めてください。そうです。聖書から多くの真実を知っていたとしても、聖霊から与えられる知恵、その知識を人生に活かすための知恵を逃してしまうことが有り得るのです。

神は人間が自分の道を進むこと、つまり、神の知恵を拒絶するなら、拒絶するままにされるお方です。エペソ人への手紙 2:1 は「さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であ

り」と言っています。私たちは本来罪の中に死んでいる状態なのですから、自分で得たどのような知恵も、決して神のもとへと導いてくれることはありません。その知恵に導いてくれる他のものが必要なのです。その状態から 21 節が始まります。「21. 神の知恵により、この世は自分の知恵によって神を知ることがありませんでした。それゆえ神は、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救うことにされたのです。」神は、宣教のことばをとおして、この知恵を広めようとします。それは、明らかに地域教会でなされる説教を指しています。ただ、パウロの語っていることの背景を考えると、パウロが言っている文脈では、福音を宣べ伝えること自体、知恵を広めていることに含まれるようです。福音が完全に宣べ伝えられるとき、そのメッセージはキリストが働かされていない人にとっては無意味な、あるいは愚かなメッセージでしかありません。ですが、そのようなメッセージは、パウロのような使徒、教会の牧師や長老たち、またキリストに従う全ての人々が宣べ伝えるべきメッセージなのです。このメッセージが宣言していることは、「十字架のことば」と結びついていて、とても具体的なものです。22-25 節を見ると、福音の内容が更に語られています。そして、なぜそれが多くの人たちに拒絶されるのかが説明されています。「22 ユダヤ人はしるしを要求し、ギリシア人は知恵を追求します。23. しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かなことですが、24. ユダヤ人であってもギリシア人であっても、召された者たちにとっては、神の力、神の知恵であるキリストです。25. 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。」パウロは、しるしや知恵を求めるユダヤ人やギリシア人を指して、再び「この世の学者や論客たち」についての指摘に戻っているようです。これは 20 節にある「この世の知恵」と 17 節にある「ことばの知恵」のことです。福音の中心は、イエス・キリストとその十字架における死です。それが十字架のことばです。ですから、キリストの意味と目的を理解することを十字架のメッセージを定義します。コリント人への手紙第二 5:21 はキリストの生と死の目的が何であったかを要約しています。「神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです。」イエスが死ななければならなかったのは、父なる神が私たちの罪を、全く罪のない完全な人でおられたイエスに負わせ、私たちの罪に対する罰を受けることを良しとされたからです。十字架のことばは、私たちが自分の罪をイエスに負っていただき、イエスが罪の代価のために死なれることで、イエスの聖さと義を私たちが受けるのだと教えてくれます。十字架刑は世界で最も屈辱的な死でしたから、進んでその刑に身を委ねるといふことなど、あり得ませんでした。また、聖なる神に対して罪を償うためだったとしても、屈辱的な死を伴う救いの計画など、馬鹿げたことにしか思えませんでした。ユダヤ人にとって、救い主が死ぬなんてあり得ないことでしたし、ギリシャ人にとっても、本当に賢い人間が死に自分の身を委ねる訳はありませんでした。ですが、23 節にある「しかし」ということばに注目してください。パウロはしるしであれ知恵であれ、ユダヤ人やギリシャ人が聞きたがっていたことを伝えるのではなく、彼らが聞きたいと思っていないことだったとしても真理を伝えようとしていました。皆が罪人であり、その罪から救われるためには、イエス・キリストの死と十字架をとおして語られたことばが必要なのです。

実は、救いを見出そうとするなら、自分を救うために何もできない絶望的な状態であることを認めなくてはなりません。福音のメッセージは、この世の自己啓発的な教えや、自分もしくは社会の助けを得てより良い人間になろうというメッセージに真っ向から対立するものです。わたしたちは、決して良くなることはないし、わたしたちに希望はないのだということを受け入れる、という意味なのです。希望は、ただイエス・キリストとその十字架の死のみに見出すことができるのです。まさにそのことを、パウロが 26 節以降で示しています。「26. 兄弟たち、自分たちの召しのことを考えてみなさい。人間的に見れば知者は多くはなく、力ある者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。27. しかし神は、知恵ある者を恥じ入らせるために、この世の愚かな者を選び、強い者を恥じ入らせるために、この世の弱い者を選びました。28. 有るものを無いものとするために、この世の取るに足りない者や見下されている者、すなわち無に等しい者を神は選ばれたのです。29. 肉なる者がだれも神の御前で誇ることはないようにするためです。」ここでもまた、召しという言葉が、特定のミニストリーのためにではなく、キリストを知る私たち全てが召されている救いのために使われていることが分かります。パウロは、その救い

に至る召しについて、わたしたちが生きるこの世には何の意味も持たないと言っています。ですが、神の道はこの世の道とは異なります。それは富や権力、あるいは身分上の特権に基づくものではありません。事実、十字架は私たちの側に基づくものではないことを示しています。ですからパウロはこの部分を 30、31 節で締めくくっているのです。「30. しかし、あなたがたは神によってキリスト・イエスのうちにあります。キリストは、私たちにとって神からの知恵、すなわち、義と聖と贖いになりました。31. 「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。」この世的な見方をすれば愚かと思われる十字架のことばとは、わたしたちは自分を救うために何一つできないけれど、神がわたしたちの階級や価値に関係なく呼び寄せて下さり、キリストの内において下さったのだ、という事を示すものなのです。神は、わたしたち罪人、すなわち自分で自分を救える希望などなく、世が与えるありとあらゆる間違った方法で救いと目的とを得ようとしていた、価値のない罪人に、キリストに在って、キリストの義を与えてくださるので、神はわたしたちを聖くして下さり、罪から贖いだして下さいます。ですから、わたしたちの側に努力したり誇ったりする余地はありません。この世で成し遂げたこと、あるいは自分の先祖や出身文化を誇る余地もありません。また、私たちが霊的指導者、たとえ有名な牧師や聖書教師に従っていようと、その人々を誇る余地もありません。私たちの誇りは、主であるイエス・キリストにあるのです！このことこそ、パウロがこの箇所ですべて述べていることなのです。パウロはこの教会の一致に関する問題を指摘しています。教会に不一致が起こるのは、教会内でキリストではない特定の人物や人格に執着するからなのです。教会の不一致を解決する方法は、教会全体が十字架のメッセージにしっかりと焦点を持つことです。十字架によって語られた福音のことば以外のものに目を向け、そこに信仰を置くようになってしまうと、わたしたちは、キリストによる一致よりも、自分たちの間にある違いの方に目を向けるようになってしまいます。十字架は、わたしたち皆が罪人であり、誰一人として例外はない、と教えています。十字架は、皆が罪に対する罰を受けるに値しており、同じ裁きの場に直面しているのだ、と教えています。そして十字架は、わたしたちには、唯一、イエス・キリストという救いの道しかないのだ、と教えています。この十字架の言葉は、この世のどんな言葉の知恵にもまさるものであり、わたしたちを一つにするものなのです。

それゆえ、キリストはわたしたちに主の晩餐を与えてくださいました。主の晩餐は救い主を必要とするわたしたちを一つにする、キリストの死を思い起こさせますイエス・キリストを主であり、救い主として受け入れ、洗礼（バプテスマ）をお受けになった方々と、共に聖餐式に預かりましょう。まだイエス・キリストを知っておられない方、洗礼（バプテスマ）を求めることに至っていない方は、参加をご遠慮いただければと思います。わたしが祈った後、執事が礼拝堂の四隅でパンとジュースをお配りします。その後、共に晩餐に与りたいと思います。祈りましょう。

1 Corinthians 1:18-31 The Word of the Cross

The passage that Dexter preached three weeks ago leads us into our passage for today. In that passage, we were introduced to the problem of division in the church that was being caused by the issue of baptism. Instead of an act of obedience that united believers in the church, these Christians were focused on who baptized them instead of the meaning of their baptism and the person of Jesus Christ that it symbolized. Paul ended that introduction in verse 17 with the humble statement, **For Christ did not send me to baptize but to preach the gospel, and not with words of eloquent wisdom, lest the cross of Christ be emptied of its power.** (As Dexter pointed out) Paul was not denying the Great Commission that includes baptism, but was pointing out that he as the baptizer was not the important one. It was not his greatness, the wisdom of his words that was the focus, but Christ's. Christ's message is the message of the cross, the good news, the gospel of the cross. **That is where we pick up today to see the word of the cross.** Let's pray and then look at 1 Corinthians 1:18-31

Let's begin by reading this passage today. 18 For the word of the cross is folly to those who are perishing, but to us who are being saved it is the power of God. 19 For it is written, "I will destroy the wisdom of the wise, and the discernment of the discerning I will thwart." 20 Where is the one who is wise? Where is the scribe? Where is the debater of this age? Has not God made foolish the wisdom of the world? // 21 For since, in the wisdom of God, the world did not know God through wisdom, it pleased God through the folly of what we preach to save those who believe. 22 For Jews demand signs and Greeks seek wisdom, 23 but we preach Christ crucified, a stumbling block to Jews and folly to Gentiles, 24 but to those who are called, both Jews and Greeks, Christ the power of God and the wisdom of God. 25 For the foolishness of God is wiser than men, and the weakness of God is stronger than men. // 26 For consider your calling, brothers: not many of you were wise according to worldly standards, not many were powerful, not many were of noble birth. 27 But God chose what is foolish in the world to shame the wise; God chose what is weak in the world to shame the strong; 28 God chose what is low and despised in the world, even things that are not, to bring to nothing things that are, 29 so that no human being might boast in the presence of God. // 30 And because of him you are in Christ Jesus, who became to us wisdom from God, righteousness and sanctification and redemption, 31 so that, as it is written, "Let the one who boasts, boast in the Lord."

Notice first of all that the key to this passage is the contrast that Paul introduces with his very first statement, **"The word of the cross."** He is contrasting this **"word of the cross"** with human **"words of eloquent wisdom"** in verse 17 that would empty the cross of Christ of its power. There is much in this world today that is taken to be wisdom. There are philosophies and teaching that claim to provide the best structure for us to live our lives under. Some of these are political, whether socialist, democratic, conservative or liberal or some other political understanding. Some are social, whether it is rugged individualism that the Western world has placed as the highest priority or not disturbing the collective peace (wa 和) of the national culture as is seen in many Asian cultures... or even academic theories such as critical theory that seeks a way to understand societal structure. Some are spiritual, such as Buddhism, Shintoism, Islam and many others that would say the best path to live life by is following these spiritual tenants. These would be the some of the modern **"words of eloquent wisdom"** that Paul

has in mind in verse 17. But against all of these theories and structures and false religions is one word – the “**Word of the Cross.**” How is what the cross is saying different than what the world is saying? That’s really the question that Paul addresses.

The first way that the Word of the Cross is different than the words of the world is that the Message of the cross has God’s power behind it. **For the word of the cross is folly to those who are perishing, but to us who are being saved it is the power of God.** The Message of the Cross is powerful because of the power it has to divide. Notice in this verse how the word of the cross divides the world into two groups...those who are perishing and those who are being saved. All those who speak “words of eloquent wisdom” are subjected to the **word of the cross** which places them in only one of two categories, perishing or saved. That means that the Word of the cross stands in judgement over all other philosophies, theories and words that claim some form of truth in this world. Verse 19 continues to show the power of this Word when it says, **19 For it is written, “I will destroy the wisdom of the wise, and the discernment of the discerning I will thwart.”** Here the Apostle Paul is quoting **Isaiah 29:14** which says, “**Therefore, behold, I will again do wonderful things with this people, with wonder upon wonder; and the wisdom of their wise men shall perish, and the discernment of their discerning men shall be hidden.**” In context Isaiah 29 is talking about God’s judgement against his own people, the nation of Israel, who are doing things and running their nation not according to God’s plan but according to their own plans and wisdom. God will show them that he is the wise one, and he is in control. To bring in this passage from Isaiah particularly puts the focus not on those who reject God, but who claim to follow God. Do even we as Christians, while claiming to reject the philosophies of the world, use our own wisdom, perhaps our own idea of what makes sense or what is practical in structuring making decisions or even leading our churches? God says that he will destroy any wisdom that is not from God, based on what he reveals, which is his Word. Any plans we make based on our own best judgement or discernment, he will thwart or cause to be a failure. The message of the cross means that we need to seek God’s wisdom and not our own as we make decisions for ourselves and our church. He goes on to ask in verse 20, **Where is the one who is wise? Where is the scribe? Where is the debater of this age? Has not God made foolish the wisdom of the world?** In too many cases, we seek wisdom in the wrong places, whether in our family life, professional life, or church life. There is a strong possibility here that Paul is trying to incorporate all sources of knowledge into these questions. The wise would be a general overarching category with “Scribe” and “debater” representing both Jews and Greeks. Remember that the Corinthian church had both Jews, who understood scribes to be some of the most educated among them and Gentiles, with the debating style of Greek philosophy being their primary source of wisdom. So, he ends his thought with the rhetorical question, “**Has not God made foolish the wisdom of the world?**” The expected answer there is yes! He has. So, why are we seeking wisdom, not just knowledge, but wisdom from any source apart from God.

This would be a good time to probably define wisdom as compared to knowledge. They are related, but not the same. Knowledge is the correct understanding of particular subject. But wisdom is the ability to make correct judgements and decisions. **So, I can be very smart and learn all there is to know about accounting principles and financial processes. That is pure knowledge. But if I take that knowledge and use it to embezzle money from a company that shows a lack of wisdom in making an illegal and even**

sinful decision. There was a funny T-shirt saying I saw quoted that points us to the relationship between knowledge and wisdom. “Knowledge is knowing that a tomato is a fruit. Wisdom is knowing not to put it in a fruit salad.” Get as much knowledge in school, at your job, about the Bible even as you possibly can; but at the same time seek for wisdom and how to apply that knowledge from its only true source – God. Yes, you can even know a lot of facts from the Bible and miss the wisdom that comes from allowing the Holy Spirit to apply it to your life.

God allows humans to go their own way, in other words to reject God’s wisdom. [Ephesians 2:1](#) says, [And you were dead in the trespasses and sins...](#) Because our natural state is to be dead in our sins, any wisdom we acquire on our own will never lead us to God. We need something else to lead us to that wisdom. That is where verse 21 picks up. [21 For since, in the wisdom of God, the world did not know God through wisdom, it pleased God through the folly of what we preach to save those who believe.](#) The way that God spreads this wisdom is through preaching. This is clearly referencing the preaching that happens in the context of the local church, but in the context of what Paul is saying it likely extends to anytime there is proclamation of the gospel happening. The gospel when fully explained is a message of “unimpressive nonsense” or “folly” to those without Christ. But that the is the message that Apostles like Paul and local church Pastors/Elders and really every follower of Christ should proclaim or “preach.” What that message proclaims is very specific and tied to this “[Word of the cross.](#)” Look at verse 22-25 where he explains further how the content of the gospel and why it rejected by most people. [22 For Jews demand signs and Greeks seek wisdom, 23 but we preach Christ crucified, a stumbling block to Jews and folly to Gentiles, 24 but to those who are called, both Jews and Greeks, Christ the power of God and the wisdom of God. 25 For the foolishness of God is wiser than men, and the weakness of God is stronger than men.](#) Paul now seems to go back to his earlier point about “scribes and debaters of this age,” by referencing both Jews and Greeks who seek signs and wisdom. This is the “[wisdom of this world](#)” from verse 20 and the “[words of eloquent wisdom](#)” from verse 17. The content of the gospel centers around Jesus Christ and his crucifixion. That is the word of the cross. So, understanding the meaning and purpose of Christ defines the message of the cross. And [2Corinthians 5:21](#) summarizes what Christ’s purpose in both his life and death was. [For our sake he made him to be sin who knew no sin, so that in him we might become the righteousness of God.](#) Jesus had to die because God the Father placed our sin on him, an absolutely sin free perfect human being so he could pay the punishment for our sin. The Word of the Cross says that we give Jesus our sin, and he dies to pay for it, so we could be given his holiness or righteousness. Crucifixion was the world’s most humiliating death, so that anyone would willingly submit themselves to it makes no sense. And a plan for salvation that involves humiliating death, even though it involves paying for sin against a holy God, is unthinkably ridiculous. To the Jews it was ridiculous that the Messiah would die and to the Greeks, no truly wise person would submit themselves to that death. Notice that small word there, “[but](#)” in verse 23. Paul was not going to give them what they wanted to hear, whether signs or wisdom, he was going to give them the truth that might not be what they wanted to hear. They are all sinners and need the death of Jesus Christ and the word he speaks to us from the cross to provide salvation from those sins.

The truth is that in order to find salvation, we have to admit we are hopeless to do anything to save ourselves. The message of the gospel goes directly against the world's message of self-help and becoming a better person whether on your own or with the communal help of society. It means accepting that we will never become better, that we have no hope. That hope is found only in Jesus Christ and his death on the cross. That's what Paul points us to as he continues in verse 26. **26 For consider your calling, brothers: not many of you were wise according to worldly standards, not many were powerful, not many were of noble birth. 27 But God chose what is foolish in the world to shame the wise; God chose what is weak in the world to shame the strong; 28 God chose what is low and despised in the world, even things that are not, to bring to nothing things that are, 29 so that no human being might boast in the presence of God.** Once again, we see the word calling here applied not to any specific ministry but to our salvation that all of us who know Christ are called to. And Paul says that that calling the way to that salvation doesn't make any sense to the world around us. But God's ways are different. It's not based on having wealth or power, or privilege of class. In fact, the cross tells us it's not based on us at all. That's why Paul ends this part of his thought with verse 30 and 31. **30 And because of him you are in Christ Jesus, who became to us wisdom from God, righteousness and sanctification and redemption, 31 so that, as it is written, "Let the one who boasts, boast in the Lord."** The word of the cross that is foolish in the eyes of the world, is that we can do nothing to save ourselves, but that God called us regardless of class or worth and placed us in Christ. He took unworthy sinners who are hopeless to save ourselves, who are seeking salvation and purpose in all the wrong ways the world offers and in Christ, gives us Christ's righteousness. He sanctifies or makes us holy and redeems us from our sin. So there is no room to boast in ourselves and our efforts. There is no room to boast in our accomplishments in this world or the culture or heritage that we come from. And there is also no room to boast in spiritual leaders that we follow, even celebrity pastors and Bible teachers. Our boasting is in the Lord, Jesus Christ! Remember, that is the point that Paul is making in the context of this passage. He is addressing this church's problem with unity, and that disunity centered around their attachment to certain persons and personalities instead of Christ. The answer to that disunity is having an unwavering focus on the message of the cross. Anytime we start putting our eyes, really putting our faith in anything other than that Gospel word that is spoken by the cross, then we can begin to see differences between ourselves, rather than the togetherness we have in Christ. The cross tells us we are all sinners, no one is exempted. It tells us we all deserve that punishment, we are all facing the same judgement. It tells us that all of us only have one path to salvation – Jesus Christ. That is what unites us – this word of the cross, that is better than any eloquent words this world is speaking.

That is why Christ gave us the Lord's Supper, this meal that points us to his death, that unites us all in our need of a savior. For anyone who has accepted Jesus Christ as Lord and Savior and been obedient in baptism, I invite you to join with us in this communion meal. If you don't know Jesus Christ or are not fully obedient in seeking baptism, then I would ask you not to participate with us today. After I pray the Deacons will offer the prepackaged bread and juice from the 4 corners of the sanctuary and we will eat and drink together. Let's pray.